

パキスタン

幹線94駅信号設備改良事業



本事業により導入された軌道回路

[借款概要]

承諾額/実行額	3,221百万円 / 3,167百万円
借款契約調印	1992年3月
借款契約条件	金利2.6%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1999年12月

[事業概要]

パキスタン国鉄幹線(ペシャワール～カラチ間)において、信号設備が旧式で危険性の高い駅を対象として、信号保安設備の改良工事を実施し、列車の安全運行を確保するもの。

[評価結果]

本事業は、1990年1月にカラチ～ペシャワール間の中間駅（サンギ駅）で発生した大規模な衝突事故（死者238人、負傷者326人）を踏まえ、列車運行の安全確保のために実施されたものである。当初計画の94駅から閉鎖済みの7駅を除いた87駅において、軌道回路を導入し、必要な枕木更新等の工事が行われた。

本事業により導入されたシステムは、駅務室において列車在線状況を確認し、信号所に司令を出すことを可能にするとともに、既存の枕木式信号機と転てつ器を連動した構造に改善するものであり、安全性は大きく向上したものと見られる。

本事業が完成した後、1990年のような事故は発生しておらず、パキスタン国鉄においても、鉄道の安全性・信頼性の向上に繋がったとして評価されている。

なお、導入されたシステムの運用・維持管理については、これまで特段の問題はないものの、今後、国鉄の経営改善を図る過程で、十分な保守要員と予算を確保して行くことが望まれる。